



ファミリーサポートセンター

エプロン通信員 宮里 希見子

原稿を書いている今、私は宜野湾市ファミリーサポートセンターの保育サポート養成講座を受けている真っ最中です。

ファミリーサポートセンターとは、「子育ての援助をしてほしい人」と「子育ての援助をしたい人」が会員（宜野湾市ではお互いに子育てを支え合い、助け合う地域の相互援助活動組織です。県内では、那覇市・浦添市・名護市・うるま市・沖縄市・宮古島市です）に発足しています。主な援助内容は、保育所、学校等の開始前や終了後の子供の送迎や、自宅での預かりです。また保護者がリフレッシュする為や急な用事の間、子どもを預かる等、多岐にわたります。

宜野湾市内には、公立法人保育所に入れない待機児童が五〇〇名以上いるのはご存知でしょうか。既存の保育施設では応じられない隙間を埋めることができるのがファミリーサポートセンターなのです。

宜野湾市は導入したばかりで、私達受講生は第一期生となります。初日の今日はまず事業説明。その後、琉大教授・公立幼稚園副園長・小児科医による各講演が行われました。

どれも子どもを持つ親にとっては興味深

く、楽しく受講出来ました。二日目は消防署での救命講習と幼稚園体験。三日目は栄養士による食事指導と調理実習によるチャイルドシート取り扱い指導があり、晴れて会員と認められます。今回の受講人数は五三名。三〇代〜六〇代の女性が多いようでした。他市と違った特徴は、男性が五名もいたということです。保育される子どもの中には、ダイナミックな遊びができる男性がいいとの希望もあるようで心強い存在です。

また「お願い会員」と「まかせて会員」の両方を兼ねた「どっちも会員」の割合も多く、実際今日の講習中に一三名の子どもが託児されていました。

私もその一人で、三人の子どもがおり、保育を依頼されるよりこちらがお願いする機会が多いかもしれませんが、近所で困っている保護者の方がいたら、少しでも力になり支え合っていきたいと思っています。

会員は今後も募集されていくそうですので興味のある方はぜひお問合せください。

問い合わせ先 宜野湾市役所産業振興課
☎八九三―四四一― (内線四四五)

平成十八年十一月号に掲載した「嘉数小六年二組の力」では、おかげさまで目標を達成することが出来ました。子ども達も、大変喜んでいきます。多くの方のご支援を頂きありがとうございます。

茶 ぐくわーゆんたく 35

ケービン

一九二二（大正十一）年三月に那覇・嘉手納間を結ぶ沖縄県営鉄道嘉手納線が竣工しました。「ケービン（軽便）」の名で親しまれた鉄道の敷設は、交通量の増加と、嘉手納の製糖工場へのサトウキビ運搬の効率化がねらいだったようです。

宜野湾には、大山・真志喜・大謝名に駅が置かれました。駅が設置されたとはいえ、人びとの移動手段は主に徒歩でした。鉄道と駅の利用といえば、宇地泊では漁で獲れた魚を、大山では山桃を駅で販売したり、那覇へ

売りに行きました。駅での販売には、場所取りをめぐるつとちよとしたトラブルもあったとか。また、三駅の中で大山駅は特に賑わいをみせて、製糖期には村内各字からのサトウキビがトロッコや荷馬車を利用して駅に集められ、嘉手納へ運ばれていきました。

このような軽便鉄道も沖縄戦によって破壊され、今では線路跡の一部が道路として残るのみです。当時、西海岸に面した鉄道の車窓から眺める景色は、現在とは異なり、とても美しい光景だったことでしょう。



大山駅で乗馬に興ずる米兵(1945年)〈上〉と、現在の大山駅跡〈下〉。

「宜野湾市史」への問い合わせ
教育委員会文化課 ☎893-4431